

取組事例の紹介 ③



長野県教育委員会事務局教学指導課心の支援室

道徳・特別活動での取組

【1 小学校では、絵本「わたしのいもうと」を読み、いじめを起こさないためにはどうしたらよいか考え、友の考えを聞き合いました】

1 学年 3学年

2 実施期日 7月25日(火)

3 授業のねらい

いじめの残酷さや悲しさを知り、いじめは絶対にしないという自分の心に強い意志を持つとともに、友だちを大事にしようとする優しい心を育む。

4 授業の主な流れ

「わたしのいもうと」(松谷みよ子 作)の読み聞かせを聞く

○とても静かに真剣に聞き入っていた。

いじめについて思うこといじめを起こさないためにどうしたらよいかを考え、学習カードに書く。

○目頃から感じていることや、「わたしのいもうと」を聞いての感想を含めて、いじめを起こさないために自分はどうしたらよいかを真剣に考えて書いていた。

友だちの考えを聞き合う

「いじめは人がいやな思いをするから、いじめは絶対にやめてほしいです。いやなことをすると自分にもどってきます。」

「いじめは友だちが大げがをするから見つけたら、すぐだめって言う。それでもだめだったらすぐに先生に言う。」

「いじめはそのときだけ一人ぼっちになったような気がする。自分は人がいやがることをしない。」

「いじめを起こさないためには、お互いに楽しく支え合っていけばいいと思います。」

「よおい子はいじめをする。いじめをすると自分にもどってくる。つよい子は女の子を守る方になる。」

「いやがることをしないで、『ごめんね』『いいよ』を言う。」

「いじめられるといやな気持ちです。給食決めるときとか希望が重なったら、ゆずってあげる。『何とかごっこに入れて』と言ったら『いいよ』と入れてあげる。」

「いじめは他の友だちをきずつけちゃうから、いくら強い人でも先生とかに言ったりそのいじめてる子に『だめだよ』って言ってあげる。」

学習した感想を書き、発表する

「 A さんの意見が良かったです。わけは、『ごめんね』と言ってあげるといじめられてた友だちが『いいよ』と言って2人も3人も友だちになります。」

「 B さんの大きなげがをするから『だめ』というのが良かったです。人のことを心で思っているから書けたんだと思います。」

「 B さんの大きなげがをするから見つけたら『だめ』という意見が良かったです。大きなげがをしてはだめだから、ぼくはげがをさせないようにしたいです。」

「いじめはげがをしたりするからやめるってことが分かりました。」

「 D さんの何か決めるときにゆずってあげるっていうのがいいと思います。」

「 E さんのいじめは友だちをきずつけるということが、本当にきずつけられると悲しいんだなと思いました。」

【いじめを止めるために勇気を出して行動する重要さを、生徒集会で考え合ったS中学校】

○ 全校でいじめをしない、させない、許さない学校づくりをしていくことを決意する

- ・生徒会長による「S中学校人権宣言」の朗読と決意発表

S中学校人権宣言

- 第一条 S中学校生徒会は、一人一人の違いを認め合い、いじめや仲間はずし、言葉の暴力を許さず、互いの人権を尊重し合います。
- 第二条 S中学校生徒は、いじめを見たら絶対に見逃ごしたり、見て見ぬふりをせず、勇気を出して注意します。
- 第三条 S中学校生徒は、いじめを受けた場合には勇気を出して友達や先生、家族などに相談します。
- 第四条 S中学校生徒は、人権を無視する行為が起きた場合には、全校の生徒や先生方と力を合わせて問題を解決します。
- 第五条 S中学校生徒はいつも周りにいてくれる友だち、先生方、家族などへの感謝の気持ちを忘れず、互いに尊重し合います。
- 第六条 この宣言に基づいて毎年6月に自分たちの生活を振り返り、いじめをしない、させない、許さないS中学校にしていきます。
※条文のみ掲載しています。

○ 見て見ぬふりをすることがいじめにつながっていることに気づく

- ・読み物資料『きのうの生活ノート』を読み、掃除の時間に「バイ菌がうつる」と嫌がらせを言われ、机を運んでもらえなかった級友が涙を浮かべている場面で、自分だったらどのように行動するか考える。
- ・自分の生活を見直すアンケートを行い、いじめているのを見ても「何もできなかった」が多いこと、注意するよりも、「励ます」が多いこと、その裏には「自分もされたら困る」という思いがあることに着目する。

アンケート結果（※抜粋して掲載しています。）

- 4月以降の学校生活の中でいじめやいやがらせなどの行為を見たか。
「仲間はずし」、「筆箱を投げる」、「バカにしていた」、「暴言や悪口」を約1/4が見ている。
- 見たときどうしたか。
「何もできなかった」と「励ました」が数人。
- なぜ、何もできなかったのか。
「勇気が出なかった」、「次は自分がされると不安だった」、「自分もしてしまうから言えなかった」

○ いじめを見たら勇気を出して止める気持ちを高める

- ・生徒が演じる「いじめている場面」を見て、自分ならどう注意するか考えて発表する。

【人権生徒集会を通しての感想】（※一部省略してあります）

私たちにできること

私は「いじめなんて自分には遠い存在だ。」「いじめなければいいんだ。」と勝手に思っていました。でも、それはちがいます。自分の身の回りで起こっていることこそ、自分に関係があるのです。知らん顔して通り過ぎることは簡単です。でも、それでは、止められるいじめも止められません。私たちに何ができるのでしょうか。

私たちにできること、一つは相手の気持ちを考え、思いやることです。そういう心をもつことで、いじめをする人は減ると私は思います。

しかし、思いやりの心だけでは足りません。私たちにできること、もう一つは、勇気をもつことです。これが一番難しいです。いじめを止めるためには勇気が必要です。でも、出そうと思って出るものではありません。一人で止めようとするからできないんです。一人より二人、二人より三人、三人より四人・・・みんながいれば怖いものなんてないんです。みんなの心が集まれば、どんな悪にも立ち向かえるのです。

私はいじめに立ち向かい続けます。自分の弱い心と戦いながらがんばります。最後に勝たなくてはいけぬのは自分です。自分の心です。私たちが変えるのです。私たちが変えていくのです。